

新刊

紹介

Book

Review

臨床糖鎖バイオマーカーの開発
—糖鎖機能の解明とその応用—

成松 久 編

メディカルドゥ/B5・316頁・5,600円

糖鎖研究がタンパク質等の他の生体成分研究に比べて後塵を拝してきた感があるのは、一般には、その構造の複雑さが原因といわれている。しかし、もう1つの理由として、糖鎖は細胞外に普遍的に存在するために、その機能が重視されなかった点が挙げられる。ゲノム、プロテオームの後ではあるが、我が国で2001年に始まった糖鎖合成関連遺伝子ブ

プロジェクト(グライコム)がやっと結実する時期を迎えた。本プロジェクトは、医学・薬学の観点から糖鎖にスポットライトを当てたものである。

本書には41研究グループによる最前線の成果が、教科書のように詳述されている。特に、①糖鎖構造解析、②糖鎖機能解析、③医療への展開が、技術編、合成編、基礎編、臨床編に取りまとめられている。

本書でクローズアップされている糖鎖研究の医療への展開は、治療というよりはバイオマーカーの探索である。これは、糖鎖が細胞外の普遍的構成成分であり、その構造異常

は、細胞異常の結果であることに基づく。すなわち、構造異常を明らかにすることで、細胞の異常を早期発見しようとするものである。

本書の臨床編は、がんを中心に展開されているが、糖鎖分析の社会貢献を示すには十分である。臨床検査学分野に携わる方々にも、興味を持って読んでいただきたい1冊である。

輿石一郎 Ichiro KOSHIISHI

※本書は、日本薬学会「薬学情報コーナー」で閲覧できます。